

# 「発祥」堺から「本場」仙台へ



# すすめ踊りで すすめ交流

起源が堺にゆかりの「すすめ踊り」の普及を目指す「堺すすめ踊り普及会」(葛村和正会長)が、すすめ踊りの本場・仙台市で20、21日に開かれる「仙台・青葉まつり」に参加し、踊りを披露する。昨秋の「堺まつり」で仙台すすめ踊りを披露してもらったお礼で、普及会は「これを機会に普及を進め、さらに交流を深めていきたい」と意気込んでいる。(東裕二)

すすめ踊りは、1603(慶長8)年、仙台城完成を祝う宴で、堺出身の石工らが即興で踊ったのが始まりとされる。扇子を翼に見立てて羽ばたいたり、跳びはねたりするのが特徴だ。由来とともに、仙台市では伝統芸能として根付いており、毎年、青葉まつりなどで披露されている。

20・21日「青葉まつり」

# 「泉州堺連合」90人遠征

3年前、仙台市のまつりに泉州から参加したダンス団体を通じて、由来を知った楠本篤子・普及会事務局長らが、堺まつりの主催者に働きかけて昨秋、仙台すすめ踊りのチームを招待、400年ぶりの「里帰り」を実現させた。また、堺市内のあちこちで踊りを披露して雰囲気盛り上げ、今年1月下旬、関係者18人で普及会を結成、準備を進めてきた。14日には市内の小学校に集まって、まつりに向けて最後の練習をした。

青葉まつりには「泉州堺連合」として約90人が参加する。20日午後3時過ぎから9時前までの間に計8回、小学生から70代までの約50人がそろいの緑の法被

で踊りを披露する。

葛村会長は「由来からも堺を代表する踊りとして発展させていきたい。今回は市民レベルでの交流になったが、今後は市や商工会議所なども巻き込んで市全体での交流にしたい」と話している。

普及会は、すすめ踊りを新たな堺の市民文化にするため、堺市内の七つの区で、すすめ踊りのグループ作りを目指している。問い合わせは楠本事務局長(080・6106・9019)へ。

「仙台・青葉まつり」参加に向けて、最後の全体練習をするメンバーは堺市界外